

Vol.4 癸生川 陽子先生

KEBUKAWA Yoko

所属：工学研究院

職位：准教授

専門分野：宇宙化学、分析化学

プロフィール(出身校、学位など)：東京工業大学 理学部 地球惑星科学科卒業、東京工業大学 大学院理工学研究科 地球惑星科学専攻 修士課程修了、大阪大学 大学院理学研究科 宇宙地球科学専攻 博士課程修了 博士(理学)

メールアドレス：kebukawa@ynu.ac.jp



研究者を目指す後輩へ「あきらめない」

Q1. ご自身の研究について教えてください

隕石の有機物の分析や宇宙空間を模擬した実験から、太陽系の起源や生命前駆物質の進化過程を研究しています。

Q2. 研究者を目指すきっかけを教えてください

小さいころから自然科学への興味があり、特に動植物や宇宙、海に関する本を読んだりするのが好きでした。そのころは研究者という概念はあまりありませんでしたが、漠然とこのような研究をしたいと思っていました。大学では宇宙に関連した研究ができる研究室を選びましたが、その頃はまだ研究者を目指すとはっきり決めてはいませんでした。修士のときに就職活動してみたものの、やはり企業への就職はなんだかしっくりこない、と思って博士課程に進学して研究者を目指すことを決めました。

Q3. 研究の面白さや大変さについて教えてください

実験をして結果を出すことも楽しいですが、そこからどんなことが言えるのかを考えていく、という過程が研究の醍醐味だと思います。通勤の電車やバスの中で意外といいアイデアがひらめいたりするんですね。

大変なことは、理系といえども文章力やコミュニケーション能力が要求されることです。そもそも文章を書くのが苦手だからこそ(?)理系なのに、研究成果をまとめた論文や研究資金集めのための申請書など、日本語ばかりか英語の文章もたくさん書かないといけません。研究発表や議論の場でのコミュニケーション力も要求されます。しかし研究結果を形にし、人々に納得してもらうためにコミュニケーション力は重要です。

Q4. 研究者を目指す後輩へのメッセージをお願いします。

あきらめない、ということでしょうか。ここでいう「あきらめない」は必ずしも1つのことに執着し続ける、ということではありません。時には見切りをつけて、別の方法を試す、ということも必要です。いろいろな角度から物事を進めることのできる、広い視野を持つことが重要だと思います。あと、Q3にも関連しますが、理系といえどもコミュニケーション力は大切です。特に英語！



好きな言葉：為せば成る

好きな1冊：ドストエフスキー『白夜』

休日の過ごし方：まったり

研究者以外に就きたかった職業：俳優